



VOICE

読者のページ

2025年4月号(53巻4号)へ寄せられた
読者の皆様からのご意見・ご感想を紹介します。

特集

どう読む!? よくある臨床化学検査の異常データ

- とても面白かったです。データから病名は導き出せても、解説を読むことで見落としに気づく点も多々ありました。出現頻度は低いが重要度の高い症例もあり、ありがたいと思いました。 **HH (兵庫県)**
- 血液データを読み解く力、疾患を推測する考え方をあらためて理解できました。超音波検査歴がない場合、血液データから重点的にみる臓器を検討しますが、ここでの学びを活かしたいと思います。 **MK (千葉県)**
- 全体的にとっても勉強になりました。特に「1. 検査値を読み解く考え方と評価手順」は、日常手順を振り返るいいきっかけになりました。 **HY (福岡県)**

特集とあわせて読みたい

緊急異常値(パニック値)/ 警戒値の対応方法

- パニック値、異常値を見落とさないためのルールづくりや対応方法を明確にしておくことの大切さを、日々実感しています。 **ヒョウゴノヒト (兵庫県)**
- パニック値を報告した後のカルテチェックはできていないので、きちんと医師に伝わっているかをカルテで確認したいと思いました。 **やもり (山口県)**
- 何でもかんでもパニック値として報告するのではなく、前回値や患者背景も含めて理解し、緊急度の見分けができるようになりたいです。 **KM (東京都)**
- パニック値の対応体制について院内で協議中です。この記事がとても参考になりました。 **RK (埼玉県)**

基礎講座

随時尿(スポット尿)における 臨床検査の注意点

- 尿沈渣中の細胞集塊の鑑別に苦慮することがあります。採尿に関して情報がないことが多いので、カテーテルでの採尿が疑われる時などは気をつけて鏡検する必要があると知りました。 **KN (大阪府)**
- 患者への採尿法の説明は難しく感じていたので、ポスターなどがとても参考になりました。理解を得られるように説明できそうです。 **さんきち (山口県)**
- 当院はカテーテル尿の割合が高く、この記事と同様に異型細胞との鑑別に迷うことも多いです。多くの薬剤を服用している場合もあり、検体だけみるのではなく、背景にも目を配る重要性を感じました。 **HH (兵庫県)**

基礎講座

基本から学ぶ聴力検査の実際

- 健診で何気なく行っている聴力検査について、さらに詳しく知ることができました。1,000 Hzと4,000 Hzは「会話」と「騒音性難聴」を目的としていることがわかり、健診受診者にも詳しく検査説明ができるので、大変助かりました。 **コウベノサウナー (兵庫県)**
- 検査の手技についてだけでなく、音の基本的性質からの解説が大変勉強になりました。 **まるねこ (兵庫県)**
- 聴力検査にはルーチンの業務で携わるだけでしたが、検査値の意義が理解できました。 **T.K (鹿児島県)**
- 音の部分にフォーカスした記事でしたが、はじめて知る内容ばかりで、ためになりました。 **YT (東京都)**

ご意見・ご感想は巻末の「ホットラインカード」、またはWebアンケートにてお寄せ下さい。ご投稿をお待ちしています!

